

明治末の政界

☆¹桂太郎 と ²西園寺公望 が交互に組閣 …³桂園時代(1901~1912)
 …山県の後継で長州・陸軍系 …伊藤の後継 立憲政友会総裁 公卿出身

⁴桂太郎(I)内閣 1901.6~06.1 外相⁵小村寿太郎
 日英同盟、日露戦争、ポーツマス条約、田中正造直訴、
 第1次・第2次日韓協約 …⁶日比谷焼き打ち事件で総辞職

⁷西園寺公望(I)内閣 1906.1~08.7 与党⁸立憲政友会
 ハーグ密使事件、第3次日韓協約、日露協約、⁹鉄道国有法、
 港湾拡大、増税、満鉄設立 ¹⁰日本社会党の公認(翌年禁止)
¹¹赤旗事件で総辞職 (総選挙では政友会大勝)

¹²桂太郎(II)内閣 1908.7~11.81 外相¹³小村寿太郎
 伊藤暗殺、¹⁴日韓併合、¹⁵関税自主権の回復、地方改良運動
¹⁶大逆事件、¹⁷工場法制定、戊申詔書など ※政友会の反発で総辞職

¹⁸西園寺公望(II)内閣 1911.8~12.12 与党 政友会 ☆1912. 明治天皇没→¹⁹大正天皇即位 病弱
 財政難による財政緊縮 ↔ 陸軍…²⁰二個師団増設要求(朝鮮駐屯など:19→21) ※辛亥革命の影響
 →陸軍大臣²¹上原勇作 辞職→後任を出さず→内閣総辞職
 (²²軍部大臣現役武官制)

<明治の内閣>		
イ	伊藤	長州
ク	黒田	薩摩
ヤ	山県	長州
マ	松方	薩摩
イ	伊藤II	長州
マ	松方II	薩摩
イ	伊藤III	長州
オ	大隈	憲政党
ヤ	山県II	長州
イ	伊藤IV	政友会
カ	桂	長州
サ	西園寺	政友会
カ	桂II	長州
サ	西園寺II	政友会

大正政変とその後

23 桂太郎(Ⅲ)内閣 1912.12~13.2 ※桂は内大臣兼侍従長から復帰

☆24 憲政擁護運動(25 第一次護憲運動)が高まる

桂は大正天皇の詔勅を利用して内閣不信任を撤回させ、また新政党の組織をめざす(発足は桂の死後)

(「閣族打破・憲政擁護」のスローガン ↓ 旧憲政本党(旧進歩党)系
27 尾崎行雄(28 政友会)・29 犬養毅(30 立憲国民党)が中心 商工業者・都市民衆も参加

桂太郎首相弾劾演説(付録史料[157])

彼等は、玉座を以て胸壁と為し、詔勅を以て弾丸に代へて政敵を倒さんとするものではないか。

※尾崎は衆議院連続25回当選 「憲政の神様」と呼ばれた

→運動激化…議会包囲、警察など襲撃 全国へ波及 →53日で内閣総辞職 …「大正政変」

32 山本権兵衛内閣 1913.2.~14.3 薩摩・海軍閥 与党33 立憲政友会

- ・34 文官任用令の緩和…政党员も上級官僚になれる
- ・35 軍部大臣現役武官制の改正…予備役・後備役にも資格
- ・36 シーメンス事件(1914)…シーメンス社(独)と海軍高官による贈収賄事件→内閣総辞職

32 大隈重信(Ⅱ)内閣 1914.4~16.10 与党38 立憲同志会 (党首39 加藤高明→外相)

軍部との調整、総選挙→同志会ら圧勝→40 二個師団増設案可決、文官任用令も元に戻す

41 第一次世界大戦に参戦、中国への42 二十一か条要求 (→近代27)

※対ロシア政策で元老と対立して総辞職

43 寺内正毅内閣 1916.10~18.9 陸軍・長州閥 「44 非立憲(ピリケン)内閣」

45 超然内閣(政友会とは提携)→同志会ら反発、合同して46 憲政会 結成→総選挙で政友会に敗北
外交…47 西原借款、48 石井・ランシング協定、49 シベリア出兵 (→近代27)

☆50 大正デモクラシー…民主主義的な風潮の広がり

51 美濃部達吉の52 天皇機関説 (国家法人説)…『憲法講話』(1912)など
統治権は国家にあり、天皇はその国家の最高機関である、と主張

53 吉野作造の54 民本主義 (1916提唱)

…論文「55 憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」(『中央公論』)

主権在君を前提としつつ、世論の尊重、多数の人民の参政を求める。

【時代順問題に挑戦】 <<げオリジナル >>

I ③山本権兵衛首相は、海軍高官による汚職事件への責任を追求され、総辞職に追い込まれた。

II ②桂首相は、憲政擁護運動に追い詰められて総辞職に追い込まれた。

III ①西園寺首相は、2個師団増設問題で陸軍と対立して総辞職に追い込まれた。

明治末の政界

☆1 _____ と 2 _____ が交互に組閣 …… 3 桂園時代(1901~1912)
└── 山県の後継で長州・陸軍系 ─┘ 伊藤の後継 立憲政友会総裁 公卿出身

4 桂太郎(I)内閣 1901.6~06.1 外相 5 小村寿太郎
日英同盟、日露戦争、ポーツマス条約、田中正造直訴、
第1次・第2次日韓協約 ── 6 日比谷焼き打ち事件で総辞職

7 西園寺公望(I)内閣 1906.1~08.7 与党 8 立憲政友会
ハーグ密使事件、第3次日韓協約、日露協約、9 鉄道国有法、
港湾拡大、増税、満鉄設立 10 日本社会党の公認(翌年禁止)
11 赤旗事件で総辞職 (総選挙では政友会大勝)

12 桂太郎(II)内閣 1908.7~11.81 外相 13 小村寿太郎
伊藤暗殺、14 日韓併合、15 関税自主権の回復、地方改良運動
16 大逆事件、17 工場法制定、戊申詔書など ※政友会の反発で総辞職

18 西園寺公望(II)内閣 1911.8~12.12 与党 政友会 ☆1912. 明治天皇没→19 大正天皇即位 病弱
財政難による財政緊縮 ← 陸軍… 20 二個師団増設要求(朝鮮駐屯など:19→21) ※辛亥革命の影響
→ 陸軍大臣 21 _____ 辞職 → 後任を出さず → 内閣総辞職
(22 軍部大臣現役武官制)

<明治の内閣>		
イ	伊藤	長州
ク	黒田	薩摩
ヤ	山県	長州
マ	松方	薩摩
イ	伊藤II	長州
マ	松方II	薩摩
イ	伊藤III	長州
オ	大隈	憲政党
ヤ	山県II	長州
イ	伊藤IV	政友会
カ	桂	長州
サ	西園寺	政友会
カ	桂II	長州
サ	西園寺II	政友会

大正政変とその後

23 桂太郎(III)内閣 1912.12~13.2 ※桂は内大臣兼侍従長から復帰

☆24 憲政擁護運動(25 第一次護憲運動)が高まる

桂は大正天皇の詔勅を利用して内閣不信任を撤回させ、また新政党の組織をめざす(発足は桂の死後)

(「²⁶閥族打破・憲政擁護」のスローガン ↓ 旧憲政本党(旧進歩党)系
27 尾崎行雄(28 政友会)・29 _____(30 _____)が中心 商工業者・都市民衆も参加
桂 太郎首相弾劾演説(付録史料157)

彼等は、玉座を以て胸壁と為し、詔勅を以て弾丸に代へて政敵を倒さんとするものではないか。

※尾崎は衆議院連続25回当選 「憲政の神様」と呼ばれた

→運動激化…議会包囲、警察など襲撃 全国へ波及 →53日で内閣総辞職 …「³¹_____」

32 _____内閣 1913.2.~14.3 薩摩・海軍閥 与党³³立憲政友会

- ・³⁴文官任用令の緩和…政党员も上級官僚になれる
- ・³⁵軍部大臣現役武官制の改正…予備役・後備役にも資格
- ・³⁶シーメンス事件(1914)…シーメンス社(独)と海軍高官による贈収賄事件→内閣総辞職

32 _____内閣 1914.4~16.10 与党³⁸_____ (党首³⁹加藤高明→外相)

軍部との調整、総選挙→同志会ら圧勝→⁴⁰二個師団増設案可決、文官任用令も元に戻す

⁴¹第一次世界大戦に参戦、中国への⁴²二十一か条要求(→近代27)

※対ロシア政策で元老と対立して総辞職

43 _____内閣 1916.10~18.9 陸軍・長州閥 「⁴⁴非立憲(ピリケン)内閣」

⁴⁵超然内閣(政友会とは提携)→同志会ら反発、合同して⁴⁶_____結成→総選挙で政友会に敗北
外交…⁴⁷西原借款、⁴⁸石井・ランシング協定、⁴⁹シベリア出兵(→近代27)

☆⁵⁰大正デモクラシー…民主主義的な風潮の広がり

⁵¹_____の⁵²_____ (国家法人説)…『憲法講話』(1912)など
統治権は国家にあり、天皇はその国家の最高機関である、と主張

⁵³_____の⁵⁴_____ (1916提唱)
…論文「⁵⁵憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」(『中央公論』)
主権在君を前提としつつ、世論の尊重、多数の人民の参政を求める。

【時代順問題に挑戦】 <<げオリジナル >

- 山本権兵衛首相は、海軍高官による汚職事件への責任を追求され、総辞職に追い込まれた。
- 桂首相は、憲政擁護運動に追い詰められて総辞職に追い込まれた。
- 西園寺首相は、2個師団増設問題で陸軍と対立して総辞職に追い込まれた。